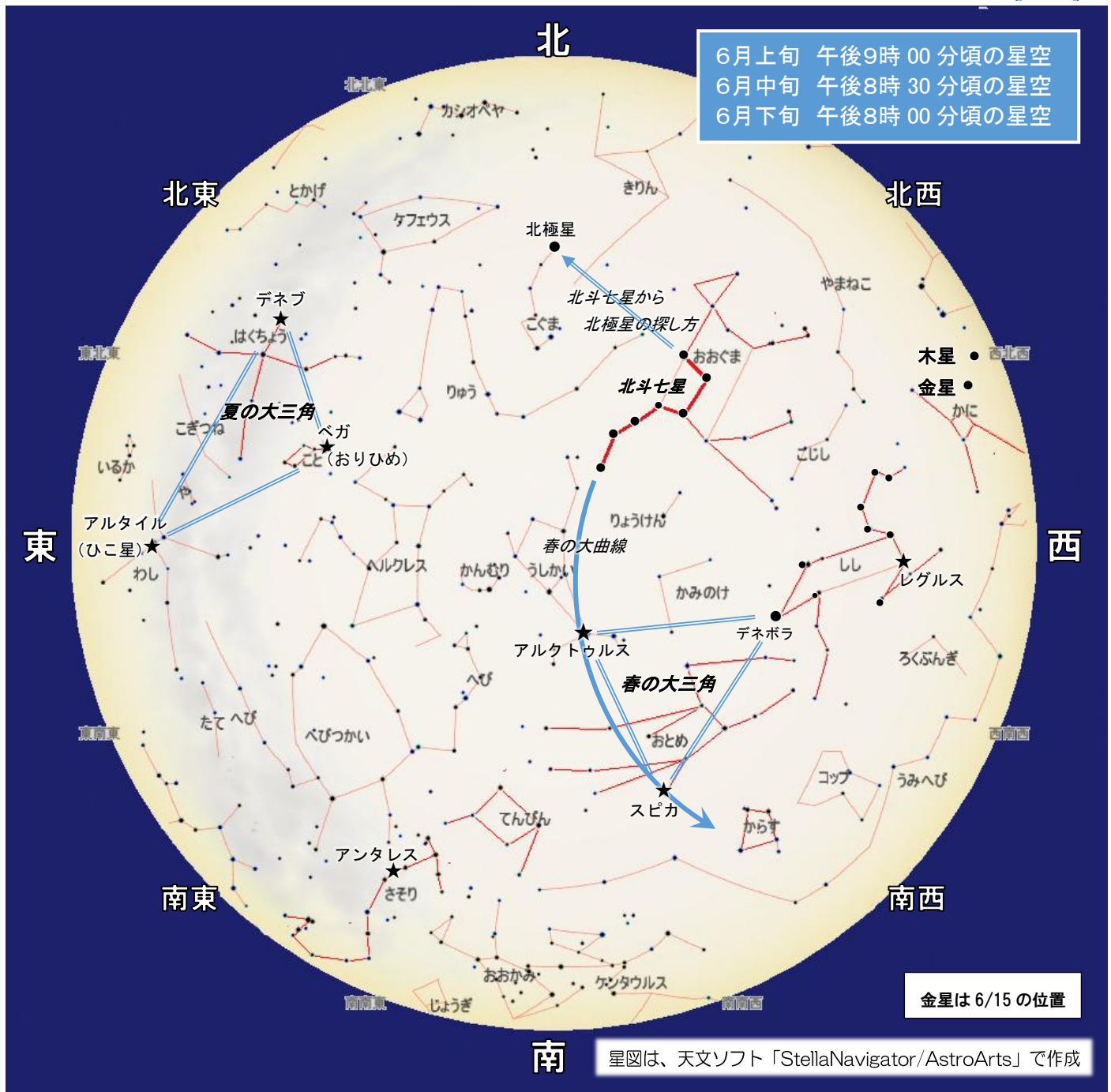


2026年 6月の星空案内



【6月の星空】

6月は、1年の内で一番昼が長い月です。21日は、太陽が最も北寄りに位置する「夏至」です。

宵の空では、まだ春の星座たちが目立ちます。『北斗七星』の柄のカーブを延長していくと、うしかい座の「アルクトゥルス」、おとめ座の「スピカ」と『春の大曲線』が続き、その先からす座が見つかります。夜が深まると『夏の大三角』が見えてきます。東北東の空にこと座の1等星「ベガ」が、その後を追って、はくちょう座の「デネブ」、わし座の「アルタイル」が昇ってきます。

【6月の惑星】

6月上旬から中旬にかけて、夕方から宵の西北西の低い空で、「金星」と「木星」が接近して見えます。最接近は9日です。また、16日には「水星」が東方最大離角を迎えます。今年の夕方に見える水星としては一番条件がよく、16日前後の夕方から宵の西北西の低い空をさがしてみましょう。